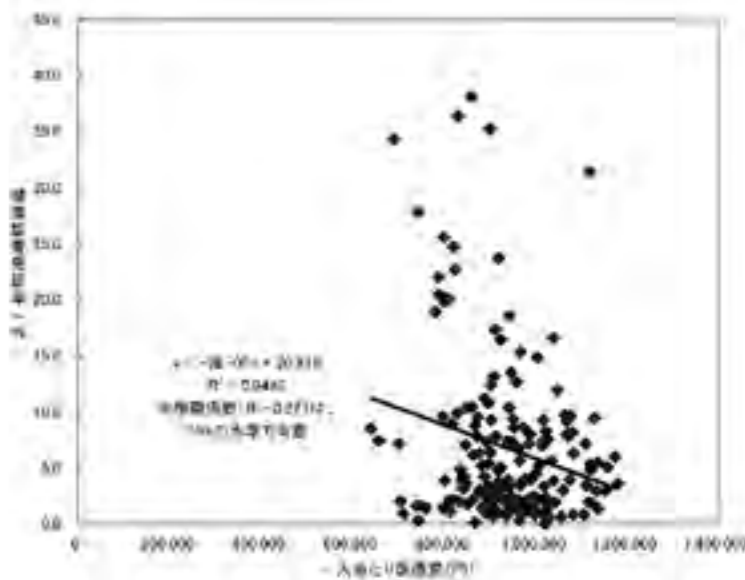


《図表—4》喜茂別町の後期高齢者一人当たり医療費と健康診査受診率の相関関係(平成20年度)



出典:「平成20年度北海道の後期高齢者医療」より作成

のでしょうか。

この疑問に明確に答えるデータは、まだ示されていません。健診や医療の現場に係る関係する機関において、そのような予測がなされているだけです。しかし、このことは今後の「健康に暮らせるまちづくり」にとって重要な認識となりますので、参考になりそうなデータを調べてみましょう。《図表—4》は、道内全市町村の後期高齢者一人当たりの医療費と健

診受診率との間に関係があるのかどうか、統計分析を行ったグラフです。この分析によると、「健診受診率の高い市町村ほど、医療費が低い」と言えそうです。後期高齢者以外の全ての年代についてもこのようなことが言えるかどうか、さらに調査が必要ですが、健診によって予防と早期発見早期治療が可能となり、医療費が抑制される効果があることは、間違いなさそうです。

II 健康な暮らしを目指して 多様な健康づくりプログラムを実施

健康を維持して楽しく病気を予防するため、町では様々なプログラムを用意しています。高齢者が入所できる福祉施設の無い本町の場合、健康にプラスとなる活動を増やそうという趣旨の事業は、特に重要です。

① 歯の健康づくり

12月5日、保健推進委員の主催で「健康づくり講演会—子どもから大人までの口腔ケア—」が開催されました【※6】。歯の病気は、体全体に大きな影響を与えます。《図表—1》(P2)によると、歯科医療費の高額化が後期高齢者医療費を押し上げる要因となることが判ります。従って、歯の健康から健康な暮らしを実現しようという狙いの有



健康づくり講演会

効性は、わが町の後期高齢者医療の実態からも想定できません。しかも、住民グループの保健推進委員が自ら企画し主催し実践したということは、住民が健康な暮らしの当事者です。大きな意義を有していると言えます。

② おしゃべりクリニック

保健師と何気ない日常会話を楽しみ、暮らしの中で困っていることや健康づくり、病気のことなど、なんでも気軽に「おしゃべり」をして、心や体の健康全般を維持するための「おしゃべりクリニック」が平成21年度から始まりました。喜茂別厚生クリニックを会場に、週1回行っています。クチコミで参加者の輪が広がりましたが、さらに参加しやすい案を検討中です。



おしゃべりクリニック

③ みんなの介護予防教室

65歳以上の高齢者を対象に、運動機能の向上と栄養及び歯と口の機能についての講話やトレーニングを行っています。12月には、簡単にできる調理を実際に体験する教室なども開き、好評でした。

④ 知っ得！栄養バランス塾

栄養面から様々なテーマに沿って実際に体験しながら、健康に役立つ食事を学びます。これまで「塩」「油」「砂糖」をテーマに実施し、好評でした。

III 健康診断を受診する機会を増やす

10月に行われる総合住民健診とその結果についての説明会は、健康にマイナスとなる病気を予防しよう、という趣旨の事業です。また、札幌市の対がん協会を受診するレディース検診も行っています。

さらに、昨年から、喜茂別町と北海道大学との連携により、生活習慣病予防、特に動脈硬化の状態がわかる「北大健診」を実施しました。通常の健診には含まれていない新しい各種検査項目を実施し、その結果の詳細な説明と併せ、喜茂別町民の健康状態の特性について指導をいただいています。多くの住民の関心と呼び、今後の継続的な健診や調査にも期待が寄せられています。

健康診断の受診率を高めるために

平成20年4月、後期高齢者医療制度と併せて「特定健診」【※7】が実施されました。対象者は、国保や社保など医療保険の加入者

で、40歳から74歳以下の人です。この特定健診(国保)の受診率を見ますと、平成20年度の実績では、本町は28.2%で、全道77位です。全道平均が20.42%なので、本町はやや高い受診率といえますが、最も受診率の高い市町村は78.48%ですので、その半分にも及びません(《図表—5》)。やはり、課題の中心は、全ての年代における健診の受診率向上にあることは、間違いがなさそうです。

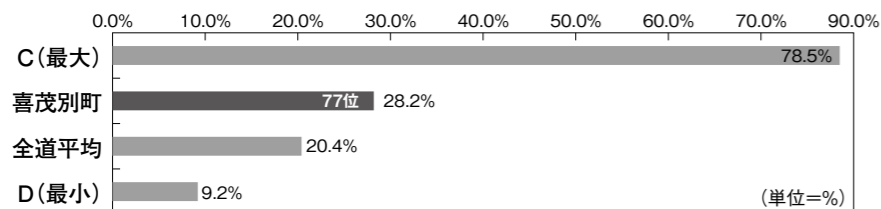
町では、平成21年度の特定健診受診率の目標値として、50%を掲げています。その実現を期して、喜茂別厚生クリニックで「バイスター健診」(個別健診)の仕組みを導入しました。その目的について、斉木係長は次のように語ります。「自分の誕生日に受診していただくよう、という動機付けのアイデアです。実施して間もないのでまだ目立った成果は見えていませんが、粘り強く進めるつもりです。」

壮瞥町の健診受診率向上の試み

様々な工夫を試みているにもかかわらず、なかなか向上しない健診の受診率。先進的な自治体ではどんな工夫をしているのでしょうか。後期高齢者の健診受診率が全道5位(31.4%)、特定健診の受診率が全道12位(54.8%)という壮瞥町の保健師西代香織さんに、高い受診率の背景についてお聞きしました。

「壮瞥町の場合は、ちょっと特殊かもしれません。30年ほど前から、端野町と併せて札幌大の研究モデル地区になっているのです。毎年、札幌大第二内科の先生方や学生さんが大勢泊り込みで壮瞥に来て各地区を回り、10日間ほどかけて詳細な健康診断を行っています。端野・壮瞥町研究と言われているので、そのデータは研究に供され、例えば国がメタボの基準を作る時の参考データとして活用されたこともありましたが、私たち保健師の指導上のデータとしてもフィードバックされます。この健診は、国保も社保も後期

《図表—5》特定健診の健康診断受診率(平成20年度)



出典:平成20年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況(速報値)

【※6】「広報きもべつ」2月号の「ふれあいセンター健康通信」(P13)に詳細を紹介しています。

【※7】生活習慣病の予防を目的とする健康診断・保健指導の仕組みです。国民の健康を確保することで自治体や国の医療費負担を削減するという目標を掲げ、その目標達成度によって財政負担の増減が行われることになっています。